

## レファレンス・コーナー -- 東南アジアの華僑・華人を知るために (ブックシェルフ)

著者	高橋 宗生
権利	Copyrights 日本貿易振興機構 (ジェトロ) アジア経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) <a href="http://www.ide.go.jp">http://www.ide.go.jp</a>
雑誌名	アジ研ワールド・トレンド
巻	152
ページ	43-43
発行年	2008-05
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2344/00005016">http://hdl.handle.net/2344/00005016</a>

## レファレンス

### コーナー

## 東南アジアの華僑・華人を知るために

高橋宗生

アジア経済研究所における華僑・華人研究は一九六〇年代にさかのぼる長い歴史を持ち、多くの研究成果が発表されてきた。当図書館においても関連文献の収集に力を注いでおり、蔵書PRの一環として、去る二月中旬から約一カ月間、ジエトロ本部ビジネスライブラリー内のアジア図書館サテライトで「東南アジアの華僑・華人」資料展を開催した。ここでは研究所図書館の蔵書約五〇〇点を、国ごとに異なる華僑・華人を取り巻く環境がわかるように、国別に配架・展示した。併せて「東南アジア華僑・華人研究の過去・現在」と題して、当研究所研究員による講演会も催された。

東南アジアの華僑・華人に関する文献は、中国語、欧米語だけでなく、タイ語、インドネシア語など現地語で書かれたものも多い。それに加えて、戦前にまでさかのぼる研究を反映して、日本語で書かれたものも多数存在する。その全体像を掴む上で、きわめて重要な文献目録として、福崎久一編『華人・華僑関係文献目録』（アジア経済研究所 一九九六年）

がある。同文献目録においては、戦前と戦後の邦文文献、ローマ字を使った諸言語で書かれた文献、華文で書かれた文献をそれぞれ地域・国ごとにまとめてあり、総計一万四〇〇点余りが収録されている。日本のみならず海外でも有名なこの文献目録に目を通すと、一九世紀から一九九〇年代半ばまでに書かれた文献の地域別特徴が把握できる。

出版から十数年が経過し、さらに多くの研究が積み重ねられ、関連文献も蓄積された。グローバル化、民主化、中国の台頭、地域経済統合の進展、社会中間層の形成などを背景に、各国の華僑・華人は急速に変容しており、研究分野も多様化しつつある。ここ十数年間に発表された文献を俯瞰できる新たな文献目録が待ち望まれる理由の一つが、ここにある。関連出版物の総体からするとほんの一部であるが、当図書館の蔵書から比較的新しい文献を紹介する。まず事典では、次の三つが注目されよう。

日本における研究の礎を示した邦文の事典として、一九五五年の研究者が執筆した、可児弘明・斯波義信・游仲勲編『華僑・華人事典』（弘文堂 二〇〇二年）がある。執筆陣の専門分野は社会科学各分野、歴史学、文化人類学、東南アジア地域研究、中国研究など様々な分野からなり、華僑・華人の実態を隅々まで明らかにしている。一〇〇ページを越す索引は、「和文事項」、「和文人名」、

「欧文事項」、「欧文人名」、「漢字画数難読語」に分かれており、検索に便利である。英文では、Lynn Pan, general editor, *The Encyclopedia of the Chinese Overseas*. Richmond: Curzon, 1999 が、「起源」、「移住」、「制度」、「関係」からなる主題、および国別にコンパクトにまとめている。興味深いコラムをちりばめるとともに、カラーの図表や写真が満載されており、楽しみながら使うことができよう。中国語では、「华侨华人百科全书」編輯委員会編『华侨华人百科全书』（北京 中国华侨出版社 一九九九年、二〇〇二年 全二二巻）がある。各巻はメディア・出版、教育・科学・技術、団体・政党、経済、人名録、法律・政策、文学・芸術、歴史、共同体・民俗などをテーマとしており、華僑・華人が出す出版物、関連団体、政党、企業グループの歴史、著名人の経歴などを知る上でたいへん便利である。当図書館は二月末時点で、そのうちの五巻、全三三三〇ページ分を所蔵する。

次に、二〇〇〇年以降出版された研究書に目を転じてみたい。地域的にはマレーシア、シンガポールが多く、マラヤ華僑のマラヤ帰属意識の確立過程を探求した原不二夫著『マラヤ華僑と中国—帰属意識転換過程の研究』（龍溪書舎 二〇〇一年）、その翌年には、シンガポール、マレーシア華人の政治史を中国との関係も含めて考察した田

中恭子著『国家と移民—東南アジア華人世界の変容』（名古屋大学出版会 二〇〇二年）がそれぞれ出版されている。両書ともに、過去に発表した学術論文が骨格を形成している。華人の言語とその教育に関しては杉村美紀著『マレーシアの教育政策とマイノリティー 国民統合のなかの華人学校』（東京大学出版会 二〇〇〇年）がある。

アジア各地のチャイナタウンに暮らす華人の生態を探った著作としては、山下清海著『東南アジア華人社会と中国僑郷—華人・チャイナタウンの人文地理学的考察』（古今書院 二〇〇二年）があり、都市・建築研究の立場から東南アジアの華人街の歴史、住居、空間構成などを考察した著作としては、泉田英雄著『海城アジアの華人街（チャイナタウン）—移民と植民による都市形成』（学芸出版社 二〇〇六年）がある。両書ともに図表、写真、地図を多用する。

華僑・華人研究は世界各地で行われており、その歴史も長く裾野も広い。研究の土台となる資料も膨大であり、継続的な文献整備が欠かせない研究分野の一つといえる。今年度は展示資料をより充実した上で、研究所図書館での「東南アジアの華僑・華人」資料展を計画している。日時が決まり次第、ホームページ上などでお知らせする予定である。

（たかはし むねお／アジア経済研究所図書館）